琉球大学学術リポジトリ

台湾社会科研究 (1) 「『認識臺灣』関連文献目録1」

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 里井, 洋一, 山口, 剛史, Satoi, Yoichi, Yamaguchi, Takeshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/320

台湾社会科研究1
「『認識臺灣』関連文献目録1」

里井洋一・山口剛史※

Analysis of Social Studies in TAIWAN vol.1
Bibliography about the RENSHITAIWAN vol.1

SATOI YOICHI・ YAMAGUCHI TAKESHI

序章　調査概要

1997年12月、琉球大学史学会において、「歴史教育與國家認同」という題で、杜正勝氏が講演を行った。杜氏は、台湾の中央研究院歴史語言研究所所長であり、「認識臺灣（社會篇）」の主任委員でもある。杜正勝氏の講演がこの研究の出発点となった。

その後、実際に杜氏に「認識臺灣（社會篇）」教科書を送っていただいた。3月には実際に台湾への現地調査を実施し、聴き取り及び資料収集を行った。

その日程及び調査場所は以下の通りである。

調査日程　1998年3月12日ー15日

調査場所

中央研究院歴史語言研究所：杜正勝氏聴き取り

臺灣師範大學：呉文星氏（「認識臺灣（歴史篇）」編著者）聴き取り

國家図書館：資料収集

その他代表的な専門書店等にて教科書、研究書を入手した。

今回の調査では、以下のことを目標とした。

1.「認識臺灣」教科書の入手

2.「認識臺灣」をめぐる政府政策文書の入手

3.「認識臺灣」をめぐる各界の議論の資料の入手、聴き取り

4.その他台湾社会科に関わる文献の入手

現在、台湾は教育改革の過渡期である。社會科は、これまでの「大中國」的な歴史[注1]・地理教育から、台湾史、台湾地理を重視し、先住民族の文化、言語を学ぶ「原住民教育」や各地域の歴史、地理、文化を学ぶ郷土教育などが実施されはじめている。その中で、國民中學において、「認識臺灣」科が設置され、97年度新学期より全國の中学で実施されている。この「認識臺灣」科は、科目設置時、教科書執筆時と台湾全土で大きな議論となった。

この議論は、台湾という土地（country）、国家（nation）の認識のありように大きくかかわるものであり、その点からも注目すべき動きであるといえる。

これらの点を踏まえ本稿では、調査を行い現段階での資料整理状況の報告及び台湾社会科の紹介を行うものとする。

第1章　台湾の教育制度の概要

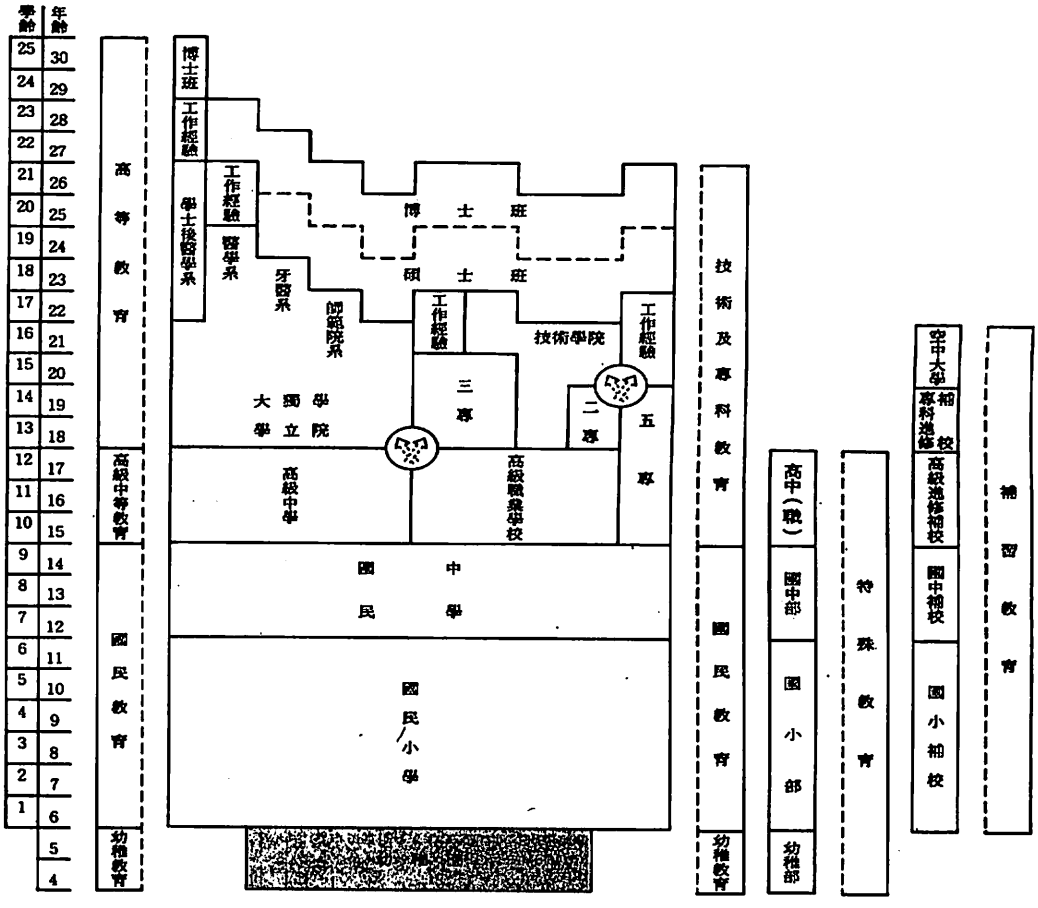
1、台湾の教育制度

台湾の教育制度は、「中華民國教育統計1997年（民國86年）　教育部発行」によると、表1のようになっており、日本と同じ6.3.3制である。國民小學・國民中學の9年間は國民教育として義務教育の期間である。その後、高級中學または高級職業學校に進むことになる。

学年度は、セメスター制をとっており、第一学期は8月1日より次年の1月31日まで、第二学期2月1日より7月31日までとなっている。年度は、その始まりの年をとって呼ばれ、例えば、民國79年8月1日より民國80年7月31日までは民國79学年度となる。

※Department of Social Studies College of Education University of the Ryukyus

表１：台湾の教育制度



２、國民小學カリキュラムと社会科

次に、國民小學について紹介する。国民小學の現行カリキュラムは、1993年（民国82年）９月に「國民小學課程標準　教育部編印」が修正発布されたものによっている。この課程標準を元に作成した科目別授業時数表が表２である。

學期總節數とは６年間通しての週時間を表している。計算方法は、道徳與健康を例にとると、一年級の第一学期に週二節、第二学期に週二節と計算していくと、六年級までで、計24となる。一節は40分授業で行われている。

表２：國民小學科目別授業時數表

合計	鄉土教學活動	輔導活動	團導活動	美勞	體育	音樂	自然	社會	數學	國語	道德與健康	
376	8	8	8	32	32	24	44	32	52	112	24	十二個學期總節數
26	0	0	0	2	2	2	3	2	3	10	2	一年級
26	0	0	0	2	2	2	3	2	3	10	2	二年級
33	1	1	1	3	3	2	4	3	4	9	2	三年級
33	1	1	1	3	3	2	4	3	4	9	2	四年級
35	1	1	1	3	3	2	4	3	6	9	2	五年級
35	1	1	1	3	3	2	4	3	6	9	2	六年級

課程標準には、その他實施通則、教材編選、教學實施、教學評量、各科目ごとの目標時間配分、シラバスにあたる教材綱要、實施方法、評量などが記されている。

國民小學社会科は、統合科目として設定され、個人領域より家庭、学校、地方、国家、世界と学年を経るに従って広がる方式をとっている。

國民小學社会科の目標は、1.児童に適切な自我概念を培い、調和のとれた集団との関係をつくり、よい生活習慣を養い、健全な人格を発展させること、2.児童に生活環境及び本国歴史、地理と文化を理解させ、郷土への愛、社会への愛、国家への愛情を培うよう助言指導する、3.児童に世界を理解させ、視野と度量を広げ、平等、互助、協同の世界観を培うよう助言指導する、4.児童に批判的思考、価値判断と問題解決能力を培い、民主社会生活の基礎に適応するよう定め、積極的人生観を発展させる[注2]となっている。

社会科の教材綱要の項目と主題、配当学年は以下のようになっている。

項目	主題	年級
個人領域	朋友	一年級
	假期生活	二年級
	團體生活	二年級
	學習與成長	三年級
家庭領域	家庭的成員	一年級
	家庭的活動	一年級
	家庭的經濟生活	二年級
學校領域	班級	一年級
	學校的運作	一年級
	學校的生活	一年級
	學校的自治活動	三年級
	人際關係	三年級
地方領域	社區的生活環境	二年級
	家鄉（一）鄉鎮市區	三年級
	家鄉（二）縣市	三年級
	台灣的地理環境	四年級
	台灣的民俗與藝文活動	四年級
	為我們服務的人	二年級
	各行各業	三年級
	台灣的開發	四年級
	台灣的自然資源	四年級
	台灣的經濟發展	四年級
	台灣的社會變遷	四年級
	社會的經濟活動	五年級
	習俗與生活	二年級
國家領域	我國的地理環境	五年級
	政府與人民	五年級
	生活規範	五年級
	中華民族的融合	五年級
	中華文化	五年級
世界領域	世界的地理環境	六年級
	文明與生活	六年級
	文化交流	六年級
	我們的地球村（一）	
	多元化的社會生活	六年級
	我們的地球村（二）	
	地球資源的永續利用	六年級[注3]

3、國民中學カリキュラムと認識臺灣科

一方、中学カリキュラムは、國民小學と同じく「國民中學課程標準」[注4]が出版されている。これによると、以下のようなカリキュラムとなっている。

表３－１　國民中學科目別授業時数表（1）[注5]

地理	歴史	公民與道德	認識臺灣地理	認識臺灣歴史	認識臺灣社會	數學	英語	國文	
8	8	8	6			18＋(4)	14＋(2)	30	六個學期總節數
2	2	2	3			3	3	5	一年級
			1	1	1				
2	2	2				4	3	5	二年級
						3＋(2)	1＋(1)	5	三年級

注）三年級の（　）の時間は、教師が個別に差異をつけることのできる時間である[注6]。

表３－２　國民中學科目別授業時数表（2）[注7]

合計	專修科目	團導活動	輔導活動	鄉土藝術活動	童軍教育	美術	音樂	體育	電腦	家政與生活科技	健康教育	地球科學	理化	生物	
196＋(10)～206＋(10)	10～20	12	6	2	6	8	8	12	4	12	4	2	12＋(4)	6	六個學期總節數
33～34	1～2	2	1	1	1	2	2	2		2	2	2		3	一年級
35～36	1～2	2	1		1	1	1	2	1	2			4		二年級
30＋(5)～33＋(5)	1～2	2	1		1	1	1	2	1	2		1	2＋(2)		三年級

現行カリキュラムの中で、新たに一年級時に、設けられたものが「認識臺灣」科である。この科目は、社会科学の科目として、公民與道徳、歴史、地理とともに位置づけられており、とりわけ臺澎金馬[注8]の認識を強化するために、社會篇、歴史編、地理編が、１年級において同時進行させるとしている[注9]。

個別に教材綱要について見ていくと、それぞれの単元構成は以下のようになっている。

【社會篇】
一、講習綱要
（一）　人民和語言
1.人民
2.語言
（二）　家庭和親屬
1.家庭組織
2.親屬關係
（三）　節日慶典和風俗習慣
1.節日慶典
2.風俗習慣
（四）　名勝古蹟和地方文物
1.名勝古蹟
2.地方文物
（五）　教育概況
1.家庭教育
2.學校教育
3.社會教育
（六）　經濟概況
1.背景簡述
2.目前概況
（七）　政治概況
1.背景簡述
2.目前概況
（八）　休閒生活
1.休閒生活概況
2.値得改進之處
（九）　宗教信仰
1.宗教類別
2.宗教活動
（十）　重要的社會問題
1.家庭問題
2.犯罪問題
3.環保問題
二、社會生活實踐活動示例・・酌用討論、座談、講演、参觀、表演、展覧、訪問、調査、.視聴教學

等方式、研究下列主題・・
（一） 調査本班同學的家庭型態
（二） 認識我的親屬
（三） 節日慶典由來
（四） 學校附近有那些名勝古蹟
（五） 本鄉、鎮或區有那些學校或社會教育機構
（六） 認識本村里的市場情形
（七） 認識本縣市區地方公職人員的選舉
（八） 瞭解本村里居民休閒活動方式
（九） 認識本縣市區著名寺廟或教堂
（十） 瞭解本鄉鎮環境污染狀況[注10]

【歷史篇】
一、導論
二、考古遺址與原住民的部落社會
1.考古遺址
2.原住民的部落社會
三、國際競逐時期（荷蘭、西班牙）
四、鄭氏治臺時期（或明鄭時期）
1.政制建置地與文教發展
2.屯墾與貿易
五、清領時代前期
1.治臺政策
2.農墾與商業
3.漢人社會的建立與發展
六、清領時代後期
1.開港與國際貿易
2.日軍侵臺與治臺政策的改變
3、近代化的經營
4、反割臺與「臺灣民主國」
七、日本殖民統治
1.統治政策及其演變
2.殖民經濟的發展
3.差別待遇的新式教育
4抗日及政治文化運動
八、中華民國在臺灣
1.戰後初期臺灣的政局
2.戒嚴體制下的政經與社會
3.戒嚴後多元社會的發展
4.中共威脅下的國防與外交
九、未來展望[注11]

【地理篇】

土地	範圍及位置
	陸、海域地形
	空間管理系統
	鄉土土地資料整理及問題討論
生態	認識天氣預報
	氣候與氣候災害
	水文與水資源
	土壤與生物
	鄉土生態資料整理及問題討論
人口	人口分布
	人口變遷
	人口組成
	鄉土人口資料整理及問題討論
產業	產業結構與農業生產
	工業類型
	商業活動
	鄉土產業資料整理及問題討論
生活	都市化與城鄉生活
	交通網路與通訊系統
	休閒與旅遊
	鄉土生活資料整理及問題討論
區域及計畫	綜合開發計畫
	地方生活圈與功能網路
	環境保育計畫
	鄉土區域及計畫資料整理及問題討論[注12]

４、教科書編審委員会

教科書は、台湾教育部が、教科用書編審委員會を組成し、教科書の内容の検討、執筆を行っていることがわかる[注13]。

教科用書編審委員会は、「國民中學課程標準實施要點」と「國立編譯館中小學各科教科用書編審委員會設置要點」に基づき、1995年６月中旬までに、國文、認識臺灣社會編、認識臺灣歷史編、認識臺灣地理編、歴史、地理、英語、數學、生物、健康教育、理化、地球科學の12課目の委員会が組成され、遅れて同年10月中旬公民與道德の委員が選出された。

編審委員会は、学科専門家、現職教科担当教師、課程と心理等を専攻する教育学者、教学媒體製作専門家、教育行政担当者と國立編譯館編審担当者の五分類に分けられ、國民中學教育、教育方法に

関心を持っている者の中から、性別、年齢、経験を考慮して選ばれる。

編審委員のうち主任委員の選定原則は次のようになっている。

1.現任各科編審委員會主任委員
2.新課程標準各科修(研)訂小組召集人
3.大学相關系所主任
4.會任本館中小学教科用書編審委員會委員

編審委員会が、研發小組を推挙し、編者がその中から選ばれ、実際の執筆作業をするという形態である。その議論過程を、歴史篇の動きを例に紹介する。

第２章　『認識臺灣（歴史篇）』の編集過程

１、認識臺灣科の設置

1997年９月から新しい教科として『認識臺灣』の授業が國民中學一年生で始まった。1993年６月教育部長郭爲藩の主動で教育部課程標準修訂委員會が『認識臺灣』科の設置を決議してから四年の歳月が流れた。本節では、『認識臺灣』の編集過程を歴史篇を中心にみていくことにする。

1991年、國民中學課程標準總綱修訂小組は國民中學課程標準總綱(修訂草案)及修訂説明会の時、國民小學社會の延長として國民中学一年生における歴史、地理、公民合科の提案がなされた[註14]。この提案は教育界をゆるがし、多くの学者専門家の批判をあび、とりさげざるを得なかった。ただしこの過程で國民中學一年生地理が台湾郷土教材を主とすることに決定されたという[註15]。一方、國民中學修訂課程標準の歴史小組では歴史六小時中、一小時を郷土歴史という分野を設け、國民中學一年生で台湾の歴史を講授することになっていたという。[註16]

1993年（民國82年）６月28日、教育部課程標準修訂委員會假國立臺北商業專科學校舉行第五次全體會議（主催教育部長兼主任委員郭爲藩）において、従来開設してきた國一歴史、地理、公民與道徳に替り、認識臺灣一科（分れて、歴史篇・地理篇・社会篇）毎週三時間の開設を決議した[註17]。

２、課程標準策定

1993年（民国82年）９月、教育部の推薦によって『認識臺灣（歴史篇）』科課程標準研訂小組委員が任命された。委員は次の通りである[註18]。

黄秀政　國立中興大學歴史研究所教授
　招集人　　教育部人文社會教科教育指導委員會推薦
温振華　國立臺灣師範大學歴史系教授
　起草人　　臺灣師範大学推薦
呂實強　中央研究院近代史研究所研究員
　教育部人文社會教科教育指導委員會推薦
李國祁　國立臺灣師範大學歴史系教授
　教育部人文社會教科教育指導委員會推薦
張玉法　中央研究院近代史研究所研究員
　教育部人文社會教科教育指導委員會推薦
李永熾　國立臺灣大學歴史系教授
　立法委員推薦
張炎憲　中央研究院中山人文社会科学研究所研究員　立法委員推薦
吳密察　國立臺灣大學歴史系副教授
　立法委員推薦
李筱峰　私立世界新聞傳播学院共同科副教授
　立法委員推薦
黄鼎松　苗栗縣鶴崗國中教務主任（校長）
　國中教師代表　　省教育廳推薦
江如雪　臺北市景興國中（歴史）教師
　國中教師代表　　臺北市教育局推薦

1993年（民國82年）12月23日、第一次全體研訂小組委員會議では進め方が議論され、課程標準草案起草人に温振華、國立臺灣師範大學歴史系教授が推挙された。この會議において、課程評鑑資料、世界各國社會科学科関係資料の蒐集進行が決められた[註19]。

1994年（民國83年）１月18日　臺北縣樹林國民中學において、第１段階北区座談会を実施した。主催者は中央研究院近代史研究所研究員、小組委員呂實強、国中代表、学者専門家、社会団体の代表が参加し、共同討論、広く意見を聴取した。

１月20日　高雄縣鳳山國民中學において、第１段階南区座談会を実施した。主催者は招集人黄秀政、小組委員温振華両氏、参加者は南区と同じく國中代表、学者専門家、社會団体の代表たちであった。

第一段階の座談会では枠組みを決めず腹案もなく各方面の建議をうけ、課程標準草案に反映させることにしたという[註20]。

３月17日　第二次全體研訂小組委員會議、主催者は黄秀政。課程標準草案の初稿を討議修正した。

４月11日　教育部招集、國民小學、高級中學、國民中學各教科課程標準修（研）訂小組聯席會議に温振華が代表として参加した。

４月13日　臺中市居仁國民中學において、第２段階中区座談会を実施した。主催者は黄秀政。完成草稿に関して意見交換がなされた。

４月14日　臺北市金華國民中學において、第２段階北区座談会を実施した。主催者は呂實強。ここでも完成草稿に関する意見交換が行われた。これらの意見は修訂の参考意見にしたという[註21]。

４月28日　第三次全體研訂小組委員會議、主催者は黄秀政。第２段階座談会の建議を受け、完成草稿を討論協議修正し、課程標準の「教材綱要」の内容と文字を確定した。

草案は五月初め教育部に送付され、５月13日、臺北市教師教育研修中心において國民中學新課程標準研討會が開かれた。この席において臺北市國中歴史科輔導團が修訂意見十二条を提出した。

６月28日、教育部が開催した國民中學課程標準編輯審査小組委員會議で若干の建議があり、これらを受け研訂小組は修正を加えた。

８月５日、國民中學課程標準委員會第六次會議をうけ、黄秀政は最後の刪訂をおこなった[註22]。

1994年（民國83年）10月、認識台湾を含む教育部國民中學課程標準を修正公布[註23]した。課程標準に示された「認識臺灣（歴史篇）」の構成と温振華の草稿原案を比較したものが表４である。『認識臺灣（歴史篇）』科課程標準研訂小組委員呂實強は草稿変更の理由を次のようにいう[註24]。

第２章考古２節、第３章先住民族３節は、両方とも十分な資料がないため合わせて１章２節とした。

第５章東寧王國時代の東寧が問題となった。東寧は国名ではない。明復興を鄭成功はかかげたから明鄭時代がいいという意見もあったが、最終的には鄭氏治臺時期におちついた。

第６章４節、大規模的反清事件は第３節漢人社會的建立與発展でも述べることができるので、あえて節立てすることはないということになった。

第７章２節は日本の侵台によって清朝が台湾建設積極策をとったのだから牡丹社事件（台湾事件）をテーマにすることはよろしくないということになった。

第８章にかんしては、抗日を指導した多くは民軍のリーダーと台南の劉永福である。故にかならずしも一章を設ける必要がない。前章清領時代後期の一節に反割臺與「臺灣民主國」として位置づけることとなった。

第10章中華民國在臺灣、１節「二二八事件及其影響」という主題は、若干の成員が妥当でないという見解を示した。台湾回帰の後に228事件が初期の重大史実として起こったという印象を与える。台湾光復には相当長期的な背景があるのみならず、台湾光復初期、政府は直接樹立されていなかったのである。ただし、光復（國家再興）という二文字に反対する人もいたので、戦後初期台湾的政局という主題におちついた。

第10章４節「中共霸權威脅下的國防與外交」という主題に関して、若干の成員が次の見解を示した。中共は霸権であらわすことはできない。戒厳令以前は実際敵であり、私たちを消滅させ、私たちの自由と人権を剝奪させると私たちは長い間考えてきた。戒厳令以後といえども軽率な態度でことにあたることはできない。したがって、霸権の２字で内容と形式をあらわすことはできない。その結果、霸権の２字を削除することになった。

『認識臺灣（歴史篇）』科課程標準研訂小組招集人黄秀政は認識臺灣（歴史篇）の目標を次のように言う[註25]。

１，各族群先民の開発を認識し、開来の使命感を継承し、団結合作の精神を涵養する。

２，自己生活環境を認識し愛郷愛國の情操を培う。

３，臺灣　澎湖　金門　馬祖　の文化資産の了解と大切に保護していく思いを増進する。

あくる1995年（民國84年）５月には教育部國民中學課程標準編輯審査小組の彙整が出版された[註26]。

３、教科書の編集と執筆

1995年（民國84年）５月「認識臺灣（歴史篇）」科教科用書編審委員會発足し、主任委員に黄秀政國立中興大學歴史研究所教授兼夜間部主任がなり、執筆人には張勝彦國立中央大學歴史研究所教授と呉文星國立臺灣師範大學歴史系教授がなった。教科用書編審委員は前期の三人に学科専門家として

李國祁國立臺灣師範大學歴史系教授、呂實強中央研究院近代史研究所研究員他五人、國中の教師が八人、教育学者、省市教師研修単位代表、媒體製作専門家、によって構成された[注27]。

6月26日、第1次全體編審委員會議、黄秀政主催、編集原則と方向、執筆者二人、教科書、教師手冊之編集小組八人を決めた。八人のうちわけは執筆者以外はすべて國中の教師たちであった。

7月4日第1次編輯小組會議が開かれ、「教材綱要」一から五章分すなわち張勝彦執筆分を討論した。

7月12日第1次編輯小組會議が開かれ、「教材綱要」六から十一章すなわち呉文星執筆文を討論した。

8月4日「認識臺灣」歴史、地理、社會三篇の編輯小組が集まった聯席會議が開かれた。

8月21日第2次全體編審委員會議が、黄秀政主催のもと開かれ、「教材綱要」が修訂され通過した。

あくる、1996年（民國85年）6月中旬までには編審委員會が12回開かれ、編審委員會レベルでようやく完成し、10月22日、「認識臺灣」歴史、地理、社會三篇の編輯小組聯席會を経て完成定稿[注28]が定まるのである。

その結果完成した教科書の構成は、課程標準「教材綱要」と異なることとなった。異同点は表5をみていただきたい。黄秀政は変更点は近現代史篇が倍増したことと文化教育内容が増加したことをあげている[注29]。

注1 呉文星「『認識台湾』台湾の『国史』を教育に」（『週刊台湾』8635号8ページ　1997年9月25日）

注2 國民小學課程標準　教育部編印　1993年（民國82年）9月修正発布　P.159

注3 國民中學課程標準　教育部編印　1993年（民國82年）9月修正発布　P.161-172を要約。

注4 國民中學課程標準　教育部編印　1994年（民國83年）10月修正発布

注5 國民中學課程標準　教育部編印　1994年（民國83年）10月修正発布　P.2

注6 國民中學課程標準　教育部編印　1994年（民國83年）10月修正発布　P.2

注7 國民中學課程標準　教育部編印　1994年（民國83年）10月修正発布　P.3-5

注8 すなわち臺灣、澎湖、金門、馬祖、現在領有している地域をさす。

注9 國民中學課程標準　教育部編印　1994年（民國83年）10月修正発布　P.6

注10 國民中學課程標準　教育部編印　1994年（民國83年）10月修正発布　P.134-136

注11 國民中學課程標準　教育部編印　1994年（民國83年）10月修正発布　P.148-150

注12 國民中學課程標準　教育部編印　1994年（民國83年）10月修正発布　P.156

注13 「中小學教科書組　談國中新過程各教科用書編審委員會組成」國立編譯館通訊　第9巻第1期　1996年（民國85年）1月　P.11

注14 彭小甫「談國民中學歴史科實驗教材」（人文及社會學科教學通迅　第2巻第5期）によると、1987年教育部人文社會學科教育指導委員會は「國民中學歴史科實驗教材大綱」で、中国史と外国史を合編した教科書をつくることを意図し、1991年初稿がでたという。

注15 陳國彦『認識臺灣』地理篇與鄕土地理（人文及社會學科教學通迅　第4巻第6期　7ページ、1994年(民國83年)4月

注16 呂實強「國中新課程『認識臺灣』（歴史篇）科設立的經過與教材教學有關的幾頂問題」（國立編譯館通訊　第9巻第2期、17ページ、1996年（民國85年）4月以下呂實強1996と表記

注17 黄秀政「國民中學『認識臺灣』（歴史篇）科的課程研訂與教材篇寫」（『國立編譯館通訊　第9巻第2期』）11ページ、1996年（民國85年）4月以下黄秀政1996と表記。

注18 黄秀政1996、12ページ附表1、ただし、推薦および（　）部分は呂實強1996、18ページによる。

注19 黄秀政1996、11ページ

注20 黄秀政1996、12ページ

注21 黄秀政1996、12ページ

注22 黄秀政1996、12ページ

注23 張勝彦「國中『認識臺灣』歴史篇教材綱要之研訂與編寫」人文及社會學科教學通迅　第7巻第5期　33ページ、1987年(民國76年)2月

注24 呂實強「國中新課程『認識臺灣』（歴史篇）科設立的經過與教材教學有關的幾頂問題」（國立編譯館通訊　第9巻第2期、18～19ページ　1996年（民國85年）4月

注25 黄秀政1996、13ページ

注26 黄秀政「談國民中學『認識臺灣』（歴史篇）教科書的篇寫」人文及社會學科教學通迅　第6巻第5期　6ページ、1996年(民國85年)2月

注27 黄秀政1996、15ページ附表二

注28 張勝彦「國中『認識臺灣』歴史篇教材綱要之研訂與編寫」人文及社會學科教學通迅　第7巻第5期　35ページ、1987年(民國76年)2月

注29 黄秀政1996、15ページ

歴史「教材綱要」草稿初稿と課程基準（表４）

1994年10月公布課程基準		温振華草案初稿	
一、　導論		一、　導論	
二、考古遺址與原住民的部落社會	1．考古遺址	二、考古遺址	1．旧石器時代
			2．新石器時代
	2．原住民的部落社會	三、南島語族的部落社會	1．平埔族與高山族的分布
			2．經在生活與社會組織
			3．神話與迷信
三、国際競逐時期（荷蘭、西班牙）		四、国際競逐時期	1．荷蘭的統治
			2．西班牙占領臺北
四、鄭氏治臺時期（或明鄭時期）	1．政制建置與文教発展	五、東寧王国時代	1．政制建置與文教発展
	2．屯墾與貿易		2．屯墾與貿易
五、清領時代前期	1．治臺政策	六、清領時代前期	1．治臺政策
	2．濃墾與商業		2．濃墾與貿易
	3．漢人社會的建立與発展		3．漢人社會的建立與発展
			4．大規模的反清事件
六，清領時代後期	1．開港與國際貿易	七、清領時代後期	1．開港與國際貿易
	2．日軍侵臺與治臺政策的政變		2．牡丹社事件與治臺政策的改變
	3．近代化的経営		3．劉銘傳的経営及其影響
	4．反割臺與「臺灣民主國」	八、雲花一現的臺灣民主國	1．建国的背景
			2．各地的保鄉抗日
七、日本植民統治	1．統治政策及其演變	九、日本植民統治	1．統治政策及其演變
	2．植民経済的発展		2．植民経済的発展
	3．差別待遇的新式教育		3．差別待遇的新式教育
	4．抗日及政治文化運動		4．武装抗日及政治運動
八、中華民国在臺灣	1．戦後初期臺灣的政局	十、中華民国在臺灣	1．二二八事件及其影響
	2．戒厳令體制下的政經與社會		2．戒厳令體制下的政治與社會
	3．解厳後多本社會的発展		3．解厳後新社會的醞釀
	4．中共威脅下的國防與外交		4．中共霸權威脅下的國防與外交
九、未来展望		十一、未来展望	

歴史「教材綱要」の比較（表５）

1994年10月公布課程基準		教科用書編審委員會教科綱要	
一、　導論		一、　導論	
二、考古遺址與原住民的部落社會	1．考古遺址	二、史前時代	1．文化演進
	2．原住民的部落社會		2．原住民社会
三、国際競逐時期（荷蘭、西班牙）		三、国際競逐時期（荷蘭、西班牙）	1．漢人與日本人的活動
			2．荷蘭人與西班牙人的活動
四、鄭氏治臺時期（或明鄭時期）	1．政制建置與文教発展	四、鄭氏治臺時期	1．政治與文教
	2．屯墾與貿易		2．墾植與貿易
五、清領時代前期	1．治臺政策	五、清領時代前期	1．治臺政策
	2．濬墾與商業		2．経済活動
	3．漢人社會的建立與発展		3．社會與文教発展
六、清領時代後期	1．開港與國際貿易	六、清領時代後期	1．開港與國際貿易
	2．日軍侵臺與治臺政策的政變		2．日軍侵臺與治臺政策的政變
	3．近代化的経営		3．建省後的積極建設
	4．反割臺與「臺灣民主國」	七、日本植民統治	1．臺灣民主國與武装抗日
七、日本植民統治	1．統治政策及其演變		2．政治與社會控制
	2．植民経済的発展		3．植民経済的発展
	3．差別待遇的新式教育	八、日據時期的文教與社會	1．教育與学術発展
	4．抗日及政治文化運動		2．文化活動
			3．社會運動
八、中華民国在臺灣	1．戦後初期臺灣的政局	九、第二次世界大戦後的政治變遷	1．戦後初期的政治
	2．戒厳令體制下的政經與社會		2．中央政府遷臺後的政治発展
	3．解厳後多本社會的発展		3．対外関係
		十、第二次世界大戦後的經濟、文教與社會	1．計畫經濟的推動與発展
	4．中共威脅下的國防與外交		2．教育與文化
			3．多元的社會
九、未来展望		十一、未来展望	

第３章　認識臺灣関連文献目録

今回の文献目録では、各項目を凡例のように記述することにした。出版年に関しては、西暦と民國暦の併記とした。また、教科書に関しては、今回入手しているもののリストであり、各教科の全リストではない。

なお、文献の順序に関しては、以下のようなカテゴリーに分けたうえで、出版年の順序を原則としてとることとした。

カテゴリーは以下の通りである。

(1)　教育過程と教育統計
(2)　教科教育
(3)　教科書関連
(4)　郷土教育関連
(5)　原住民教育
(6)　教育改革関連
(7)　大学教科書
(8)　歴史学その他

凡例

（題）：書籍、論文のタイトル
（著）：著者名
（編）：編集者、編集所
（属）：著者の所属団体等
（年）：出版年月
（発）：発行元
（出）：出版所（発行元と異なる場合記述）
（考）：備考。目次等、論文の紹介

(1)　教育過程と教育統計

1（題）國民小學課程標準
（編）教育部編印
（年）1993年（民國82年）九月二十日修正發布
（考）目次
　壱・教育部令、函
　　甲、発布令
　　乙、實施函
　弐・國民小學課程標準
　　甲、國民小學課程標準總綱
　　第一　目標
　　第二　科目與節数
　　第三　實施通則
　　乙、國民小學各科課程標準
　　一、道徳與健康
　　二、國語
　　三、數学
　　四、自然
　　五、社會
　　六、音樂
　　七、體育
　　八、美勞
　　九、團體活動
　　十、輔導活動
　附錄　國民小學課程標準修訂經過
　結語

2（題）國民中學課程標準
（編）教育部編印
（年）1994年（民國83年）十月二十日修正發布
（考）目次
　壱・教育部令、函
　　甲、発布令
　　乙、實施函
　弐・國民中學課程標準
　　甲、國民中學課程標準總綱
　　第一　目標
　　第二　科目與節数
　　第三　實施通則
　乙、國民中學各科課程標準
　　一、國文
　　二、英語
　　三、數學
　　四、「認識臺灣」（社會篇）
　　五、「認識臺灣」（歴史篇）
　　六、「認識臺灣」（地理篇）
　　七、公民與道徳
　　八、歴史
　　九、地理
　　十、生物
　　十一、理化
　　十二、地球科學
　　十三、健康教育
　　十四、家政與生活科技
　　十五、電脳
　　十六、體育

十七、音樂
十八、美術
十九、童軍活動
二十、鄉土藝術活動
二一、輔導活動
二二、團體活動
二三、專修科目
(一)　國文
(二)　英語
(三)　第二外國語
(四)　數學
(五)　理化
(六)　地球科學
(七)　體育
(八)　音樂
(九)　美術
(十)　職業陶冶
附錄　國民中學課程標準修訂經過
結語

3 (題) 高級中學課程標準
(編) 教育部編印
(年) 1995年 (民國84年) 十月修正發布1996年
(民國85年) 六月出版
(考) 目次
壹、教育部令、函
甲、發布令
乙、實施函
貳、高級中學課程標準
甲、高級中學課程標準總綱
第一　目標
第二　科目與節數
第三　實施通則
乙、高級中學各科課程標準
一、公民
二、國文
三、英文
四、三民主義
五、歷史
六、地理
七、世界文化 (歷史篇)
八、世界文化 (地理篇)
九、現代社會
十、數學
十一、基礎物理
十二、基礎化學
十三、基礎生物
十四、基礎地球科學
十五、物質科學 (物理篇)
十六、物質科學 (化學篇)
十七、物質科學 (地球科學篇)
十八、生命科學
十九、體育
二十、軍訓
二一、家政與生活科技
二二、音樂
二三、美術
二四、藝術生活
二五、選修科目
(一) 國學概要
(二) 應用文
(三) 書法
(四) 文法與修辭
(五) 英語會話
(六) 英語聽講
(七) 英文作文
(八) 英文文法
(九) 第二外國語
(十) 歷史
(十一) 地理
(十二) 社會科學導論
(十三) 心理学導論
(十四) 邏輯
(十五) 法學概論
(十六) 幾何學
(十七) 數學 (甲)
(十八) 數學 (乙)
(十九) 電腦
(二十) 物理
(二一) 化學
(二二) 生物
(二三) 地球科學
(二四) 體育概論
(二五) 田徑運動
(二六) 水上運動
(二七) 體操

（二八）舞蹈
（二九）球類運動
（三十）國術
（三一）自衛運動
（三二）食物與營養
（三三）食物與烹調
（三四）服裝製作
（三五）家庭工藝
（三六）製圖
（三七）能源與動力
（三八）工業材料
（三九）音樂理論
（四十）合唱
（四一）國樂合奏
（四二）音樂欣賞
（四三）音樂個別指導
（四四）音樂基礎訓練
（四五）樂器合奏
（四六）音樂創作
（四七）色彩學
（四八）素描
（四九）國畫
（五十）水彩畫
（五一）油畫
（五二）雕塑
（五三）版畫
（五四）美工設計
附錄　高級中學課程標準修訂經過
結語

4（題）中華民国教育統計
（編）教育部
（年）1997年（民國八86年）
（考）目次
凡例
前言
(一)歴年度各級教育簡況
(二)八十五年度各級教育現況
1.各級學校概況
2.幼稚教育
3.國民教育
4.高級中等教育
5.高等教育
6.社会教育
附錄

5（題）中華民國教育統計指標
（編）教育部編印
（年）1997年（民國86年）
（考）目次
壹、教育概況
弐、教育發展
參、教育結構
肆、教育素質
伍、專技人力之培育
陸、教育經費
七、國際文教
八、國民體育
九、附錄：國際比較

6（題）台閩地區各國民小學基本統計一鄉鎮市區別一八十五學年度
（編）教育部統計處編印
（年）1997年（民國86年）六月
（考）目次
壹・學校代碼之含義
弐・各國民中小學基本統計（鄉鎮市区別）
01台北縣
02宜蘭縣
03桃園縣
04新竹縣
05苗栗縣
06台中縣
07彰化縣
08南投縣
09雲林縣
10嘉義縣
11台南縣
12高雄縣
13屏東縣
14台東縣
15花連縣
16澎湖縣
17基隆市
18新竹市
19台中市

20嘉義市
21台南市
31－42台北市
51－61高雄市
71　金門縣
72　連江縣
参・鄉鎮市区代碼對照表
附錄・本書作流程

(2)　教科教育（認識臺灣・歴史・公民與道徳等）関連

1（題）傳統史論與歴史教學
（著）張元
（属）國立清華大學史研究所教授
（年）1992年（民國81年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第2巻第5期、P.6～18
（考）歴史学教授の有様を中国の伝統的史論の上にみようとする論考。

2（題）從「社會科学概論」課程之現況看當前高職的歴史教育
（著）林麗月
（属）國立臺灣師範大學歴史系教授
（年）1992年（民國81年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第2巻第5期、P.19～26
（考）1986年職業課程標準改定により、1987年から職業学校に社会科学概論の一単元として、「本國歴史(主に中國文化史)」がおかれることになった。その社會科学概論の現況の問題点を「本國歴史」を中心にのべた論考。

3（題）談國民中學歴史科實驗教材
（著）彭小甫
（属）國立臺灣師範大學歴史系教授
（年）1992年（民國81年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第2巻第5期、P.27～41
（考）1987年教育部人文社會學科教育指導委員會は「國民中學歴史科實驗教材大綱」で、中國史と外國史を合編した教科書をつくることを意図した。1991年初稿がを公開、編輯小組編集人である彭小甫が、この教材の理解をはかるために書いた論考である。

4（題）我國國小歴史教育研究的回顧與展望
（著）徐雪霞
（属）國立台南師院副教授
（年）1992年（民國81年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第2巻第5期、P.42～58
（考）小学校歴史教育の研究史をまとめた論考

5（題）清末民初中學堂（校）修身教科書的発展（1902－1922）
（著）陳光輝
（年）1993年（民國82年）8月
（出）人文及社會學科教學通訊　第4巻第2期　P6～21
（考）目次
1、前言
2、我國教科書誕生的簡史
3、清末時期中學堂修身教科書的發展
4、民初時期中學校修身教科書的發展
5、結語

6（題）我國小學公民課程的演進
（著）郁漢良
（属）國立編譯館國民小學生活與倫理科教科用書編審委員会委員
（出）人文及社會學科教學通訊　第4巻第2期　P22～38
（年）1993年（民國82年）8月
（考）目次
1、前言
2、我國歴代的德育教材探微
3、清朝末葉與民國初期的小學「修身」課程
4、北伐完成與全國統一後的小學「公民」課程
5、政府遷台後在復興基地國民學校的「公民」課程
6、現行國民小學課程標準的「生活與倫理」課程與教材内容剖析
7、結語

7（題）加強成人公民教育芻議
（著）黄惟饒
（出）人文及社會學科教學通訊　第４巻第２期
　　P47～55
（年）1993年（民國82年）８月
（考）目次
　　１、後工業社會的概念
　　２、教育在後工業社會發展過程中的角色
　　３、邁向後工業社會階段我國所面臨的問題
　　４、公民教育對我國未來發展的意義
　　５、加強成人公民教育的必要與方向
　　６、結語
　　參考書目

8（題）德國的公民教育
（著）嚴翼長
（属）又藻外語學院教授
（年）1993年（民國82年）８月
（出）人文及社會學科教學通訊　第４巻第２期
（考）ドイツの初等中等公民教育について述べた論考。

9（題）我國國民小學社會科課程発展之研究
（著）呂若瑜
（属）國立臺灣師範大學教育研究所碩士
（年）1994年（民國83年）１月
（考）小学社會科の課程について、國立編譯館、板橋教師研習會、人文及社會科學教育指導委員會の聞き取り、分析から明らかにした修士論文。

10（題）「認識臺灣」地理篇與鄉土地理
（著）陳國彦
（属）國立臺灣師範大學地理系教授
（年）1994年（民國83年）４月
（出）人文及社會學科教學通迅　第４巻第６期
　　P.６～10
（考）認識臺灣にいたるまでの過程（1991年國中に公民、歴史、地理、合科教学構想から國中１年に臺灣鄉土教材）を述べ、認識臺灣における鄉土地理の実践方法についてのべた論考。各村学区で編輯すべき「鄉土地理」副読本の内容が記されている。

11（題）鄉土地理的教學內涵與教育價值
（著）曹治中
（年）1994年（民國83年）４月
（出）人文及社會學科教學通迅　第４巻第６期
　　P.11～25
（考）目次
　　１、前言
　　２、近代區域地理與鄉土直觀教學法的內涵
　　３、現代區域地理空間概念的量化與反思
　　４、鄉土地理教學的心理學価值
　　５、結論
　　６、參考文獻

12（題）地名ー鄉土地理研究的指標：以高雄縣橋頭鄉為例
（著）陳國章・呉進喜
（年）1994年（民國83年）４月
（出）人文及社會學科教學通迅　第４巻第６期
　　P.26～45
（考）目次
　　１、前言
　　２、橋頭鄉的區域概況
　　３、漢人入墾前的橋頭地區
　　４、橋仔頭莊核心地位的確立
　　５、由零星的開墾到全面的開發
　　６、結語

13（題）美國鄉土地理教育舉隅
（著）潘桂成
（属）國立臺灣師範大學地理系副教授
（年）1994年（民國83年）４月
（出）人文及社會學科教學通迅　第４巻第６期
　　P.46～63
（考）目次
　　一、緒言
　　二、美國小學的地理教育
　　三、美國初中之地理教育
　　四、美國高中的地理教育
　　五、結語

14（題）評介英國的鄉土地理輔助教材
（著）黄朝恩

（属）國立臺灣師範大學地理系所教授
（年）1994年（民國83年）4月
（出）人文及社會學科教學通迅　第4巻第6期
P.64～75ページ
（考）目次
1、前言
2、由教育目標和課程標準看英國的鄉土地理教育
3、鄉土地理輔助教材實例之一
：Local study kit
4、鄉土地理輔助教材實例之二
：Geographical Erguiry
5、鄉土地理輔助教材實例之三
：Understanding Environmental Issues
6、結語

15（題）土地認同與歷史教育
（著）詹素娟
（年）1995年8月
（出）臺灣歷史學會通迅第1期 P.55～56

16（題）心靈的故鄉ー歷史教學設問
（著）劉静貞
（年）1995年（民國84年）8月
（出）臺灣歷史學會通迅第1期 P.51～54

17（題）民主與教育ー談公民民主教育如何落實於社會科教材中
（演講人）　柯春徳博士
（翻譯人）　曹定人
（出）國立編譯館通訊　第9巻第1期　P16～20
（年）1996年（民國85年）1月
（考）アメリカの社會科教育を研究している柯春徳博士がアメリカの公民教育について語る。その際、教科書の變遷についても言及し、「研究社會事件的産生及問題的解決」という教科書の在り方を説明している。その後講演に対する質疑も押さえられている。

18（題）美國全國性中小學過程標準建立對我國過程革新之啓示
（著）林淑貞
（属）教育部教育研究委員會專門委員
（年）1996年（民國85年）1月
（出）國立編譯館通訊　第9巻第1期　P25～26
（考）台湾とアメリカの社會科と教科書制度を比較した論考。

19（題）從國小社會科新過程標準探討環境教育之實施
（著）洪如玉
（属）苗栗縣育英國小教師
（年）1996年（民國85年）1月
（出）國立編譯館通訊　第9巻第1期　P31～36
（考）社會科新課程の中でどのように環境教育と行うことができるかを学年別に述べた論考。

20（題）從命題的角度探討國中與高中地理教材連續性的問題
（著）李明燕
（年）1996年（民國85年）1月
（出）國立編譯館通訊第9巻第1期　P45～48
（考）國中と高中の地理教材の連續性と相違を、入学考試を視野にいれながら、課程目標、農業的単元、等高線を事例に分析している。考試レベルでは有意差を認めることはできないという。

21（題）『追從歷史足跡』ー與古蹟的對話／鄉土文化教學的嘗試
（著）莊文賢
（属）新竹市私立曙光女中歷史科教師
（年）1996年（民國85年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第6巻第5期
P.17－28
（考）1995年1月26日、新竹市古蹟巡検の実践記録

22（題）國民中學「認識臺灣（歷史篇）」科的課程研訂與教材篇寫
（著）黄秀政
（属）國立中興大學歷史研究所教授・本館國中認識臺灣（歷史篇）科篇審委員會主任委員
（年）1996年（民國85年）4月
（出）國立編譯館通訊第9巻第2期P11－16
（考）「認識臺灣（歷史篇）」のカリキュラム編成、教科書編集プロセスを知る上での基本

文献。

23（題）國中新課程「認識臺灣（歴史篇）」科設立的經過與教材教學有關的幾頂問題
（著）呂實強
（属）中央研究院近代史研究所所員・國立編譯館國中認識臺灣（歴史篇）科編審委員會委員
（年）1996年（民國85年）４月
（出）國立編譯館通訊第９巻第２期、P.17－24
（考）「認識臺灣（歴史篇）」科設立的經過、とくにその前史である歴史科における郷土教育構想と温振華の初稿原稿が課程標準への修正内容が触れられている。また教材と教学の問題では１、郷土教育実施、２、国家の位置付け、３、中華民族、にかんする問題が研究史をひきながら位置づけられている。

24（題）認識臺灣（歴史篇）篇寫簡介
（著）張勝彦
（属）國立中央大學歴史研究所教授・國立編譯館國中認識臺灣（歴史篇）科編審委員會委員
（年）1996年（民國85年）４月
（出）國立編譯館通訊第９巻第２期、P.25
（考）認識臺灣（歴史篇）篇寫執筆紹介である。執筆にあたっての課程標準に示された目標、張勝彦執筆部分の簡単な紹介がある。台湾が多くの民族によって構成され、多くの民族の共同によってつくられた点の認識を課程の教学目標としている。

25（題）談臺灣地區中學歴史科教學現象－兼談對未来「認識臺灣」教科書之展望
（著）張明卿
（属）臺北市敦化國中教師・國立編譯館國中認識臺灣（歴史篇）科編審委員會委員
（年）1996年（民國85年）４月
（出）國立編譯館通訊第９巻第２期、P.26－29
（考）前半は臺灣中学歴史科授業の問題点を次のようにあげている。１、試験主導の授業、２、授業時間の不足、３、歴史における地理観念や他國の歴史概念の欠乏、４、簡便で精緻な教科書づくり、後半は認識臺灣への期待表明である。

26（題）國民中學「認識臺灣（地理篇）」科教科用書篇寫理念之我見
（著）林俊全
（年）1996年（民國85年）４月
（出）國立編譯館通訊第９巻第２期　P.30－31
（考）認識臺灣（地理篇）課程標準の三目標と教科書執筆にあたって考慮したいくつかの重点を述べている。特に教科書執筆一大挑戦として、地域の聴き取り調査があげられている。

27（題）淺論國小社會科新課程編製方向與因應之策
（著）蔡景明
（属）台中師院國民教育研究所研究生
（年）1996年（民國85年）４月30日　P28
（出）國教輔導　第35巻第４期
（考）目次
一、前言
二、新教材社會科課程編製特色
(一)與家庭日常生活結合
(二)以児童爲本位
(三)課程的多元化與世界観
三、因應之策
(一)加強教師新知訓練
(二)從師資養成著手
(三)多與教師溝通
(四)改變評量方式
(五)改變社會科是副科的概念
(六)發展地方特色
四、結語

28（題）論21世紀我國國小社會科應有的方向
（著）黄祈仁
（属）台中師院進修部礼教二學生
（出）國教輔導　第35巻第４期
（年）1996年（民國85年）４月30日
（考）21世紀に向けた社會科構想を述べた論考。

29（題）一個社會科任教師的心聲與建議
（著）王派仁

（属）台中縣大里市内新國小教師
（年）1996年（民國85年）4月30日
（出）國教輔導　第35巻第4期P46－47
（考）社會科教師が生徒、教室について感じたことを述べた論考。

30（題）國中公民與道德教育理論及過程教材規畫之研究　研究之一　公民身份與公民教育的理論探討
（著）蘇峰山
（属）中央研究院社會學研究所籌備處博士後研究員
（出）國立編譯館通訊　第9巻第4期　P19－26
（年）1996年（民國85年）10月
（考）編譯館のもとで行われた「公民與道德」に関する理論的、実践的研究の第一部。理論的枠組みについて言及。

31（題）國中公民與道德教育理論及過程教材規畫之研究　研究之二　國中公民與道德教育的檢討與展望一焦點討論精華
（著）陳舜芬
（属）國立清華大學共同教育委員會教授
（著）王昱峰
（属）臺北市永春市高中教師、輔仁大學講師
（出）國立編譯館通訊　第9巻第4期　P27－35
（年）1996年（民國85年）10月
（考）「公民與道德教科用書第一冊」の研発小組の議論をまとめた論考。

32（題）國中公民與道德教育理論及過程教材規畫之研究　研究之三　國中師生對公民與道德教育意見之分析
（著）瞿海源
（属）中央研究院社會學研究所籌備處主任　國立編譯館館國中公民與道德科編審委員會委員
（出）國立編譯館通訊　第9巻第4期P48－54
（年）1996年（民國85年）10月
（考）生徒と教師の意見を分析した論考。

33（題）談國中公民與道德科新課程一公民科教育的趨勢
（著）會濟群
（属）國家圖書館館長　國立編譯館國中公民與道德科編審委員會主任委員
（出）國立編譯館通訊　第9巻第4期　P48－54
（年）1996年（民國85年）10月
（考）編審主任委員をつとめる會濟群が科目の理念と実施方法についてコメントしたもの。

34（題）國中「認識臺灣」歷史篇教材綱要之研訂與編寫
（著）張勝彦
（属）
（年）1997年（民國86年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第7巻第5期　P32－35
（考）「認識臺灣」歷史篇が完成するまでの経過説明。

35（題）國民中學「認識臺灣（歷史篇）」科教材篇寫的構想與特色
（著）呉文星
（属）國立臺灣師範大學歷史系教授
（年）1997年（民國86年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第7巻第5期　P36－41
（考）「認識臺灣（歷史篇）」科教科書執筆時における内容変更と編輯原則を論述した論考。94年10月公布教科書綱要を次の原則により変更を加えた。
1、教学時数22講次を実際の教学時数である26講次にした。
2、近現代史を詳述した。
3、文教活動の比重を増した。
4、歴史事実を尊重した。
5、用語に価値中立性を求め地理社会篇と一致させた。
教科書編集執筆の原則は次のようにした。
1、現在の台湾支配地域の発展の調和的記述。
2、実証、客観的立場。
3、用語簡単具体。
4、学科間の連携。
5、研究と討論を教師と生徒の工夫に委ねた。

６、教師用指導書にキーワードを付加した。

36（題）歴史教育論文集
（著）王仲孚
（属）國立台湾師範大学歴史系、歴史研究所教授
（年）1997年（民國86年）６月10日
（出）商鼎文化出版社
（考）目録
歴史課程
歴史教科書
教材教法
教學評量
歴史教育論文目録
附録

37（題）Curriculum reform in a Context of Political Authority: A Case Study of Social Studies Curriculum innovaTion in Taiwan
（著）Ching Tien Tsai
（年）1997年（民國86年）７月
（出）研究彙刊　人文與社會科學　第７巻第３期

38（題）「認識臺灣」台湾の「國史」を教育に
（著）呉文星
（属）國立臺灣師範大學歴史系教授
（年）1997年９月25日
（出）週刊台湾8635号
（考）この教科書は台湾の「國史」であり、郷土史ではない。台湾が終始「中国の一部」だったわけではない。文化的、民族的「中国」意識は、近代的な国民としての「中国人」意識と違う。「認識台湾」は、現政府に対する承認を強化する。「日治時代」は日本による統治の肯定ではない。政治のことになると先生は震えだす。二二八事件を歴史の教訓として。日本時代は全面的な否定もできなければ全面的な肯定もできない。近代化を受け入れたのは台湾人の潜在力。台湾経済の自主性を持った、多元的な同時発展を阻害。「今後の国家の生存と発展のために」。李登輝総統の「中国は一つ」は文化「中国」。国際競争時期以前、どの國家も台湾を統治したことがない。先生たちもしらなかったこと。

(3)　教科書関連

【認識臺灣】
1（題）認識臺灣（社會篇）全一冊試用本
（編）國立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）８月

2（題）認識臺灣（社會篇）教師手冊全一冊試用本
（編）国立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）８月

3（題）認識臺灣（歴史篇）全一冊試用本
（編）国立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）８月

4（題）認識臺灣（歴史篇）教師手冊全一冊試用本
（編）国立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）８月

5（題）認識臺灣（地理篇）全一冊試用本
（編）国立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）８月

6（題）認識臺灣（地理篇）學生習作全一冊試用本
（編）国立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）８月

7（題）認識臺灣（地理篇）教師手冊全一冊試用本
（編）国立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）８月

【國民小學社會】
8（題）社會１下
（出）康軒文化
（年）1997年（民國86年）１月

9（題）社會習作１下

（出）康軒文化
（年）1997年（民國86年）1月

10（題）社會2下
（出）康軒文化
（年）1998年（民國87年）2月

11（題）社會習作2下
（出）康軒文化
（年）1998年（民國87年）2月

12（題）國民小學社會教師手冊　第四冊（二下）
（編）南一書局國小社會教科用書編輯委員會
（年）1997年（民國86年）2月初版　1998年（民國87年）2月修訂版

13（題）國民小學社會第六冊（三下）
（編）国立編譯館主編
（年）1992年（民國81年）一月改編本

14（題）國民小學社會習作第六冊（三下）
（編）国立編譯館主編
（年）1992年（民國81年）一月改編本

15（題）國民小學社會第八冊（四下）
（編）国立編譯館主編
（年）1993年（民國82年）一月改編本

16（題）國民小學社會習作第八冊（四下）
（編）国立編譯館主編
（年）1993年（民國82年）一月改編本

17（題）國民小學社會第十冊（五下）
（編）国立編譯館主編
（年）1994年（民國83年）一月改編本

18（題）國民小學社會習作第十冊（五下）
（編）国立編譯館主編
（年）1994年（民國83年）一月改編本

19（題）國民小學社會第十二冊（六下）
（編）国立編譯館主編
（年）1995年（民國84年）一月改編本

20（題）國民小學社會習作第十二冊（六下）
（編）国立編譯館主編
（年）1995年（民國84年）一月改編本

21（題）國民小學社會教師手冊第一冊（一上）
（編）國立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）8月正式本初版

22（題）國民小學社會教師手冊第二冊（一下）
（編）國立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）1月正式本初版

23（題）國民小學社會教師手冊第三冊（二上）
（編）國立編譯館主編
（年）1997年（民國86年）8月正式本初版

24（題）國民小學社會教師手冊第四冊（二下）
（編）國立編譯館主編
（年）1980年（民國69年）1月初版、1991年（民國80年）1月改編本初版、1997年（民國86年）1月改編本七版

25（題）國民小學社會教師手冊第五冊（三上）
（編）國立編譯館主編
（年）1980年（民國69年）8月初版、1991年（民國80年）8月改編本初版、1996年（民國85年）8月改編本六版

26（題）國民小學社會教師手冊第六冊（三下）
（編）國立編譯館主編
（年）1982年（民國70年）1月初版、1992年（民國81年）1月改編本初版、1997年（民國86年）1月改編本六版

27（題）國民小學社會教師手冊第七冊（四上）
（編）國立編譯館主編
（年）1981年（民國70年）8月初版、1992年（民國81年）8月改編本初版、1996年（民國85年）8月改編本五版

28（題）國民小學社會教師手冊第八冊（四下）
（編）國立編譯館主編
（年）1982年（民國71年）1月初版、1993年（民

國82年）１月改編本初版、1997年（民國86年）１月改編本五版

29（題）國民小學社會教師手冊第九冊（五上）
（編）國立編譯館主編
（年）1982年（民國71年）８月初版、1993年（民國82年）８月改編本初版、1996年（民國85年）８月改編本四版

30（題）國民小學社會教師手冊第十冊（五下）
（編）國立編譯館主編
（年）1983年（民國72年）１月初版、1994年（民國83年）１月改編本初版、1997年（民國86年）１月改編本四版

31（題）國民小學社會教師手冊第十一冊（六上）
（編）國立編譯館主編
（年）1984年（民國73年）８月初版、1994年（民國83年）８月改編本初版、1997年（民國86年）８月改編本四版

32（題）國民小學社會教師手冊第十二冊（六下）
（編）國立編譯館主編
（年）1984年（民國73年）１月初版、1995年（民國84年）１月改編本初版、1997年（民國86年）１月改編本三版

【國民中學公民與道德】
33（題）國民中學公民與道德第四冊
（編）国立編譯館主編
（年）1998年（民國87年）一月改編本

34（題）國民中學公民與道德教師手冊第四冊
（編）国立編譯館主編
（年）1995年（民國84年）一月改編本

35（題）國民中學公民與道德第六冊
（編）国立編譯館主編
（年）1998年（民國87年）一月改編本

36（題）國民中學公民與道德教師手冊第六冊
（編）国立編譯館主編
（年）1995年（民國87年）一月改編本

37（題）現行國民小學「生活與倫理」教科書的編輯導向與架構
（著）黄建一
（属）國立新竹師範學院教授
（年）1993年（民國82年）８月
（出）人文及社會學科教學通訊　第４巻第２期　P39－46
（考）「生活與倫理」の教科書編集方針と単元構成についてまとめた論考。編集方針に價値澄清法、道徳認知發展理論と取り入れたとしている。編集方針は、１、承傳優良文化、２、適應時代脈動、３、建立個人價値體系、４、提高道徳判斷能力、５、加強解決問題的能力、６、増進行善的意願、７、陶冶優美情操、８、落實行爲實踐となっている。

38（題）現行國小社會科本第九册第二単元中歴史教材的検討－兼論國小階段應有完整的中國通史概念
（著）陳健文
（属）國立臺灣師範大學歴史研究碩士班研究生
（年）1993年（民國82年）８月
（出）人文及社會學科教學通迅　第４巻第２期　P.123～139
（考）小学校中國史教科書（國小社會科本第九册）中特に「民族の源流と融合」部分を批判した論考。

39（題）對國小社會科第三冊課本編排之我見
（著）盧秀鳳
（属）國立台中師範院初等教育研究所研究生
（年）1993年（民國82年）８月
（出）人文及社會學科教學通訊　第４巻第２期　P140－141
（考）教科書のプログラムについての意見を述べた論考。

40（題）談國中新過程各科教科用書編審委員會組成
（著）中小學教科書組
（年）1996年（民國85年）１月
（出）國立編譯館通訊　第９巻第１期　P11－15
（考）國中新課程にともなう教科書編審委員會の

編成方法とメンバーについての解説。

41（題）談國民中學「認識臺灣」（歴史篇）教科書的篇寫
（著）黄秀政
（屬）國立中興大學歴史研究所教授
（年）1996年（民國85年）２月
（出）人文及社會學科教學通迅　第６巻第５期　P６－10
（考）國立編譯館通訊第９巻第２期掲載、國民中學「認識臺灣歴史篇）」科的課程研訂與教材篇寫を簡略化した内容。

42（題）國民小學第六冊第一単元〈認識我們的家鄉〉補充教材試編－〔臺北府興建〕
（著）蔡秀娟
（屬）國立臺灣師範大學歴史研究所碩士班研究生
（年）1996年２月（民國85年）
（出）人文及社會學科教學通迅　第６巻第５期P11－16
（考）國民小學第３学年社會科教科書第６冊の内、第１単元私たちの故郷を認識しよう、第７節　從古蹟看家鄉過去の具体化として臺北府城の教材化をはかったものである。

43（題）體檢國小教科書
（著）吳密察・江文瑜編
（出）前衛出版社
（年）1994年（民國85年）３月
（考）目次
序言　江文瑜
壱、分科體検篇
一、國語科　江文瑜
二、生活與倫理科　（游盈隆）
附錄
三、社會科一地理　周素卿
社會科一歴史　吳密察
附錄
弐　主題體検篇
一、生態觀和環保觀　鄭先裕
二、經濟概念　林向樘
三、兩性觀　李元貞
四、族群觀　孫大川
五、公民意識與民主觀念　張正修
六、國家認同問題　戴寶村
参、編輯制度篇
一、小學教科書編輯制度之體検　曾哲明

44（題）國中公民與道德教材研發經過　第一冊「学校與社會生活」
（著）翟海源
（屬）國立編譯館國中公民與道德科編審委員會第一冊召集委員
（年）1996年（民國85年）10月
（出）國立編譯館通訊　第９巻第４期　P7－11

45（題）國中公民與道德教材研發經過　第二冊「法律與政治生活」
（著）鄧毓浩
（屬）國立編譯館國中公民與道德科編審委員會委員
（年）1996年（民國85年）10月
（出）國立編譯館通訊　第９巻第４期　P11－13

46（題）國中公民與道德教材研發經過　第三冊「經濟生活」
（著）邊裕淵
（屬）國立編譯館國中公民與道德科編審委員會第三冊召集委員
（年）1996年（民國85年）10月
（出）國立編譯館通訊　第９巻第４期　P14－15

47（題）國中公民與道德教材研發經過　第四冊「文化生活」
（著）沈清松
（屬）國立編譯館國中公民與道德科編審委員會第四冊召集委員
（年）1996年（民國85年）10月
（出）國立編譯館通訊　第９巻第４期　P15－18

48（題）國中「歴史」本國史上冊的教材綱要與編輯構想
（著）林麗月
（屬）國立臺灣師範大學歴史系教授
（年）1997年（民國86年）２月
（出）人文及社會學科教學通迅　第７巻第５期

P.6－11
（考）國民中學中国史教科書上冊（盛清まで）の教材要綱と執筆構想をのべた論考である。國中１年に認識臺灣が入ったため、圧縮のポイントを、従来から批判されてきた高中歴史と國中歴史の重複問題をからませながら述べている。

49（題）新編國中歴史課本第二冊的撰寫構想
（著）呂芳上
（属）
（年）1997年（民國86年）２月
（出）人文及社會學科教學通迅　第７巻第５期 P.12－20
（考）國民中學中國史教科書下冊（近代以後）の執筆構想をいくつかの観点からのべた論考である。

50（題）篇寫國中歴史外國史上冊之架構與理念
（著）劉德美
（属）中央研究院近代史研究所研究員
（年）1997年（民國86年）２月
（出）人文及社會學科教學通迅　第７巻第５期 P.21－26
（考）國中外國史教科書上冊（市民革命以前）の執筆構想と理念をのべた論考である。

51（題）國中歴史第四冊新課程教材與教學之探討
（著）呉圳義
（属）國立政治大學歴史系教授
（年）1997年（民國86年）２月
（出）人文及社會學科教學通迅　第７巻第５期 P.27－31
（考）國民中學外國史教科書下冊（帝國主義以後）の執筆構想と理念をのべた論考である。

52（題）認識臺灣教科書參考文件
（著）臺灣史研究會
（年）1997年（民國86年）９月25日
（考）目録
編序
序：對於「認識臺灣」教科書應有的認識一兼論「課程」與教科書一王仲孚
修訂
歴史篇　王曉波　李維士　曽健民　黄麗生　潘朝陽
社會編　李維士　陳昭瑛　曽健民　劉孝春
討論
一個「新史觀」的破綻　陳映真
中日代理戦争的危機已在臺燃起　蔣永敬
我對國中「認識臺灣」教科書的質疑　李慶華
人民主體何在？文化主體何在？一評「認識臺灣」教科書　黄麗生
臺灣人民史　不是總督府的行政史　潘朝陽
並不是臺灣人特別可憐一「認識臺灣・社會編」的検討　陳昭瑛
臺灣人民主體耶？政治正確耶？　曽健民
正視「認識臺灣」教科書一給呉京部長的一對信　侯立朝
「實力史觀」一評李永熾與黄富三的臺灣史発言　李娟
好漢剖腹來相見一評「認識臺灣」國中教科書的討論　王曉波
呉部長、你錯了！　呉建國
在歴史的鏡子中可以看到自己的面一答高志敏的「紅帽子」誣害　王曉波
讓學術的回帰學術一「國中『認識臺灣』教科書、内容是否妥當公聴會」　實錄
臺灣不能自絶於中國和亜州一「認識臺灣」國中教科書総検討記者會　實錄
「認識臺灣」教科書大辦論　實錄
「認識臺灣」教科書大辦論觀後　呉瓊恩
抗議
反對媚日教材、拒絶台獨教育　全國各界反對違憲竄改教科書聯盟
我們對國中「認識臺灣」教科書的看法　将永敬等
寧爲歴史棄官、勿爲歴史罪人一給呉京部長的公開信　中國統一連盟
我們不是番一我們是臺灣的主人　莫那能
附錄
欽差院士的尚劍一談「歴史課程標準」的修訂與教科書的編輯　王仲孚
談歴史教科書的編輯「奇蹟」　王仲孚
亡人之國、先去其史一論杜正勝的的御用史

觀　朱文男
對同心圓歷史教育的質疑ー質問杜正勝教授
潘朝陽
救救孩子、救救下一代ー評皇民化階級竄改
臺灣歷史教育的陰謀　「海峽評論」社論

(4)　郷土教育関連

1（題）台南府城　繪本台灣風土民俗
（文）張玲玲
（図）楊翠玉
（出）遠流出版公司
（年）1990年（民國79年）4月4日
（考）郷土教育の絵本教材本。おじいちゃんと孫が一緒に台南をまわるというもの。

2（題）台北三百年　繪本台灣風土民俗
（文）劉思源
（図）膨大維
（出）遠流出版公司
（年）1990年（民國七十九年）4月4日
（考）台北の歴史を具体的に再現した絵本。

3（題）國小郷土教育的「範囲」問題：從兒童的畫地圖浅談社會科教材「我們生活的地方」
（著）江碧貞
（属）係僑大先修班講師
（年）1994年（民國83年）4月
（出）人文及社會學科教學通迅　第4巻第6期　P.76～94
（考）目次
一、緒言　1動機與目的、2畫地圖研究的意義、3畫地圖的分析、
二、我國國小社會科有關日常生活環境的教材、
三、所畫的内容ー空間要素的分析
四、主観的分析ー相貌的環境認覺　1研究方法、2分析的方法與結果、3小結、
五、畫地圖「所畫範囲」的評量　1在地圖上還原畫地圖　2地區的比較　3小結、
六、結語

4（題）郷土教材發展與實施之分析研究ー以宜蘭縣爲例
（著）黄王冠
（属）國立臺灣師範大學教育研究所碩士班研究生
（年）1994年（民國83年）6月
（出）國立臺灣師範大學教育研究所碩士論文
（考）県レベルにおける郷土教材作成と実施を分析した論考。第一章緒論、第二章文献探討、第三章宜蘭縣郷土教材發展與實施、第四章研究發現與討論、第五章結論與建議

5（題）以郷土爲素材的資優生教育教學
（著）温振華
（属）臺灣歴史學會
（年）1995年（民國84年）8月
（出）臺灣歴史學會通迅第1期　P.51～54
（考）目次
一、前言
二、郷土素材的多元性
三、郷土素材的具體性與易於觀察
四、郷土素材之長期觀察與學習動機的強化
五、郷土有機體與新宇宙觀
六、主題之選取與研究
七、郷土研究與知識啓蒙ー以北投地名爲例
八、結語

6（題）歴史郷土教學補充教材試編ー以『淡蘭古道』爲題材
（著）胡焯崟
（年）1996年（民國85年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第6巻第5期　P.29－36
（考）『淡蘭古道』という郷土教材の編集要点

7（題）歴史郷土教學補充教材試編ー我家在基隆（第三部分・民俗采風）
（著）衣若蘭
（属）國立臺灣師範大學歴史研究所碩士班研究生
（年）1996年（民國85年）2月
（出）人文及社會學科教學通迅　第6巻第5期　P.37－44
（考）郷土教育教材開発、対象学年は國民中學1年、地域は基隆、内容は基隆の先住民、宗教信仰、中元祭。

8（題）歴史郷土補充教材試編ー以『嘉義新港奉天宮』爲例
（著）歐素瑛
（属）國立臺灣師範大學歴史研究所碩士班學生
（年）1996年（民國85年）２月
（出）人文及社會學科教學通迅　第６巻第５期　P.45－58
（考）郷土教育教材開発、『嘉義新港奉天宮』を題材とする。時間は90－100分。対象は國民中學から國民小學高学年。

9（題）社會科田野研究法及其教案舉例
（著）洪如玉
（属）苗栗縣政府教育局調用教師
（年）1996年（民國85年）４月30日
（出）國教輔導　第三十五巻　第４期　p.35－39
（考）田野研究法の意味と方向、社会科への応用と具体的教案事例（環境教育）の紹介。

10（題）國小社會科『快楽學習』之我見
（著）顔如玉
（属）彰化市民生國小教師
（年）1996年（民國85年）４月30日
（出）國教輔導　第三十五巻　第４期　P.40－45
（考）楽しい小学校社會科学習を意識した論考。

11（題）新教育實踐—開放教育、郷土教育、田園教育分析
（編）楊思偉主編
（年）1997年（民國86年）２月
（出）師大書苑發行
（考）目次
序　楊思偉
開放教育
開放教育説從頭　鄭端容
台北縣開放教育實施模式之探討　白寶貴
從開放教育的内涵談我國開放教育策略　鍾馥薇
從開放教育談教師角色之扮演與努力方向　方玉綱
郷土教育
郷土教育之實施與檢討ー台北市爲例　周端雲
宜蘭縣郷土教學発展與實施之探討　黄玉冠
母語教學實施現況之探討ー以新竹縣客家母語教學爲例　劉瑞琴、李貴霞
日本小學課程中的「郷土教材」　楊思偉
田園教學
湖田國小的田園教學　連寛寛
田園課程的教學策略　黄鳳瑛
附録
博習自然廣見聞　嘉尚學子修性靈ー博嘉小的田園教學　黄鳳瑛

12（題）從國民中學「認識臺灣（地理篇）」科中如何落實郷土地理教育
（著）洪紹芳
（年）1996年（民國85年）４月
（出）國立編譯館通訊第９巻第２期　P.32－34
（考）「認識臺灣（地理篇）」六大単元（土地、生態、人口、産業、生活、区域）は臺灣全域から校区郷土地理にかえる。その郷土地理学習の重要性と実施方法が述べられている。実施方法は次の８点があげられている。１、各地區に郷土地理教材編輯小組を作る。２、研修を組織する。３、施設備品を整備する。４、各県各市に郷土地理教学資源センターの設立。５、地理実際活動を教化する。６、具体的学生用ノートの整備、７、社会資源の有効利用。８、学校や親が郷土地理教学活動の中心としての組織化。

13（題）郷土情、世界観ー臺灣郷土地理教育的発展
（著）鄧國雄
（発）國教月刊社
（年）1997年（民國86年）12月31日
（出）國教月刊　第四十四巻　第三・四期　P.43－48
（考）臺灣郷土地理教育の意義と現状の分析をおこなった分析である。特に各縣、市が編輯した郷土地理教材の分析引用は興味深い。

14（題）郷土教學活動單設概説

（著）鄧天徳
（発）國教月刊社
（年）1997年（民國86年）12月31日
（出）國教月刊　第四十四巻　第三・四期　P.49－54
（考）郷土授業実施のための要点がまとめられている。北投温泉見学が事例としてあげられている。

(5) 原住民教育

1（題）排灣族婚禮　繪本台灣風土民俗
（文）劉思源
（図）唐壽南
（年）1989年（民國78年）11月4日
（考）排灣族の婚禮についての絵本教材本。原住民教育として活用できるもの。

2（題）臺灣原住民史彙編2－雅美、邵族歴史篇及都市原住民採訪紀錄
（編）臺灣省文獻委員會編印
（年）1996年（民國85年）八月
（考）目次
序
序
中央研究院民族學研究所雅美族口傳文學資料檔案翻（譯）
都市原住民篇田調筆記
歴史篇口述歴史
邵族田調筆記

3（題）中華民國原住民教育報告書
（編）教育部編印
（年）1997年（民國86年）6月
（考）目録
序
一　発展背景
二　理念政策
三　行政措施
四　課程教學
五　師資培育
六　人才培植
七　衛生保健
八　社會教育
九　未來願景

4（題）原住民教育
（著）牟中原・汪幼絨
（発）師大書苑發行
（年）1997年（民國86年）6月
（考）目次
陳序
第一章　多元文化下的原住民教育
第二章　國際少数民族教育現況
第三章　大陸少数民族教育概況
第四章　原住民教育概況
第五章　原住民教育問題総合分析
第六章　結論與建議

5（題）臺灣原住民羣地位之變遷
（著）黄森泉
（属）國立臺中師範學院副教授兼原住民教育研究中心主任
（年）1996年（民國85年）4月30日
（出）國教輔導　第三十五巻　第4期　P.20－23
（考）台湾先住民の地位の変遷を述べた論考。

6（題）臺灣原住民羣地位之變編
（著）黄森良
（属）國立臺中師範學院副助教授兼住民教育研究中心主任
（年）1997年（民國86年）8月
（考）目次
1．多民族教育的觀点論台灣原住民教育的方向
2．原住民小學的多民族教育探討
3．從多元文化教育分析小學社會科的原住民文化内涵
4．多民族教育觀点的國小社會科課程方案探討
5．從多元文化教育觀点発展小學社會科原住民郷土教材－以排灣族為例
6．屏東県偏遠小學社會科教學問題之探究
7．原住民小學臨床教學経験分析
8．原住民児童的内感
9．排灣族山地國小學生家長参與子女

10. 都市原住民児童適応問題之探討
11. 原住民児童族群認同與文化認知之探討

(6) 教育改革関連文献

1 （題）臺灣的教育検討會論文集
（著）林宗義等
（発）自立晩報社文化出版部
（年）1998年（民國78年）11月
（考）目次
「臺灣的教育」論文集序言
自立報系社長呉豊山致詞
臺美基金會會長李豊明致詞
從海外看臺灣的教育　林宗義
從教育均等的觀點談臺灣教育的問題與改進措施　張荔薫
利用新的教育測量理論和技術來増進入学考試的功能　許擇基
從「避泰」到「反依頼」ー三十年臺灣「人文社會科學」歴史片斷之反省　傅大爲
臺灣中小學教育民主化的評估　林玉体
臺灣地区的政治教育　江炳倫
戦後臺灣法學教育的問題ー癈結、借鑑與反思　李鴻禧
儒家思想與現代社會中的倫理教育　黄光國
大學的一些問題　劉福増
聴衆発問及議員回答
診斷臺灣教育的病症　陳永興
提倡教育的純度和熱度　李豊明

2 （題）課程生産力初探
（著）張清濱
（属）臺灣省國民學校教師研習會主任
（年）1996年（民國85年）１月
（出）國立編譯館通訊　第９巻第１期　P21ー
（考）教科書が多様化する中で、教育目標を充分に到達させることは可能かを述べた論考。

3 （題）詮釋郭爲藩部長的「座號」論ー國中教育危機在缺乏勵志性教學
（著）張教
（属）國中教師
（年）1996年（民國85年）１月
（出）國立編譯館通訊　第９巻第１期　P37ー

4 （題）臺灣民間教育改革運動ー國家與社會的分析
（著）薛曉華
（発）前衛出版社
（年）1996年（民國85年）２月
（考）目次
第一章　緒論
第二章　理論溯源　教育領域中「國家ー社會」分析的理論基礎
第三章　民間教育改革運動之背景因素
第四章　集體行動空間的集結與形成
第五章　評析台灣民間教育改革運動中的「國家ー社會」面貌
第六章　結論ー八〇年代中期後台灣的民間教育改革運動「國家ー社會」資源與權空間的重組

5 （題）教育改革的臺灣經驗ー國民教育的政策及行政措施分析
（著）王震武、林文瑛著
（発）業強出版社
（年）1996年（民國85年）８月
（考）目次
摘要
第一章　緒論　教育的範式與教育改革
第二章　研究目的與方法
第三章　教育問題的現象與報道
第四章　教育改革的經驗
第五章　臺灣教育的範式
参考文献
附錄一　報紙資料編碼系統
附錄二　教育部公報編碼系統
附錄三　教育部公報所見的「方案」及其分類

6 （題）民間教育改造藍圖ー朝向社會正義的結構性變革
（著）410教育改造聯盟
（発）時報文化出版企業股份有限公司
（年）1996年（民國85年）10月25日
（考）目次
編輯緣起
序

總論
第１篇　民間教育改革的基本立場
第２篇　對官方教育改革的批判
分論
第３篇　民間教育改革的訴求及對策
課程及教科書制度
師資培育
學制與終生教育
中小學教育環境
中小學學校組織及學區
教育行政組織及權限
私人興學
幼兒教育
原住民族教育
身心障礙教育
經濟弱勢者教育權益
國民教育經費
教育法體系之重建
附篇
第４篇　推動改革的策略與具體方案
附錄　教育基本法草案
開於四一〇教育改造連盟

7（題）教育問題探求－政策取向
（著）張芳全著
（発）商鼎文化出版社
（年）1997年（民國86年）5月1日
（考）目次
第一章　我國教育制度要覧
第二章　教學方法問題
第三章　初等教育問題
第四章　中等教育問題
第五章　高等教育問題
第六章　終生教育問題
第七章　師範教育問題
第八章　教育政策問題
第九章　教育改革問題
附錄

8（題）教育問題與教育改革－理論與實際
（著）張芳全
（発）商鼎文化出版社
（年）1997年（民國86年）10月20日
（考）目次
第一章、教育問題的界説
第二章、教育問題的相關概念
第三章、教育改革的緣起
第四章、教育改革政策及方案擬定的取向
第五章、我國教育問題的實際
第六章、我國官方八〇年代後的教育改革
第七章、我國教育如何邁入二十一世紀

9（題）最新教育問題評析
（著）張芳全
（発）商鼎文化出版社
（年）1997年（民國86年）11月１日
（考）目次
第一篇　學校改革篇
第二篇　修憲與教改篇
第三篇　高等教育改革篇
第四篇　教育政策改革篇
第五編　聯考問題篇
第六篇　教改的反思篇

(7)　大学教科書
1（題）社會科教材教法
（著）李緒武編著
（発）五南圖書出版公司
（年）1984年（民國73年）１月初版　1997年８月三版一刷
（考）目次
再版序
序言
第一章　緒論
第二章　社會科意義與功能
第三章　社會科教學目標
第四章　社會科教材的內涵與排列
第五章　社會科教材的選擇與組織
第六章　教學目標的擬訂
第七章　教學方法
第八章　能力本位教學
第九章　概念教學
第十章　價值教學
第十一章　単元教學活動設計的編製
第十二章　教學評量
第十三章　社會科補充教材之選擇與使用

索引
参考書目

2（題）師範專科學校教科書ー社會科教學研究
（編）國立編譯館主編
（年）1985年（民國74年）２月
（考）目次
第一章　総論
第二章　社會科的課程及教材
第三章　社會科教學方法
第四章　社會科的教學計畫與實習
第五章　社會科的教學資源
第六章　社會科的作業活動與評鑑

3（題）國小社會科教學研究
（著）程健教
（発）五南圖書出版公司
（年）1991年（民國80年）７月初版
（考）目次
簡序
自序
第一章　社會科的性質和方向
第二章　社會科的課程與資源
第三章　社會科的教學與策略
第四章　社會科教學的計畫與實習
第五章　社會科教師的培養與成長
第六章　新社會科教學的課題和展望
本書主要参考書目

4（題）中國近代教育史
（編）王炳照主編
（発）五南圖書出版公司
（年）1994年（民國83年）３月初版
（考）目次
第一章　阿片戦争和太平天國時期的教育
第二章　洋務運動時期的教育
第三章　戊戌維新運動時期的教育
第四章　辛亥革命時期的教育
第五章　五四運動和國民革命時期的教育
第六章　十年内戦到抗日戦争時期的教育

5（題）國民小學道德課程與教學
（著）黄建一・余作輝合著
（発）師大書苑
（年）1996年（民國85年）８月
（考）目次
自序
第一章　緒論
第二章　國民小學道德課程的精神與特色
第三章　國民小學道德課程目標分析
第四章　國民小學道德課程内容
第五章　主要道德教學方法
第六章　道德教學評量
第七章　親職教育的配合
第八章　教科用書的編寫
第九章　教學資源
第十章　教科用書的審査與評鑑
第十一章　教科書的誤用與正用
第十二章　國民小學道德科的問題與展望
参考書目

(8)　歴史学、その他

1（題）台灣史的問題意識與反省
（著）張炎憲
（年）1995年（民國847年）８月
（出）臺灣歴史學會通迅第１期　P.７～８
（考）目次
１、國民意識、歴史意識與歴史教育
２、統治者史觀與民衆史觀
３、殖民地史觀、帝國主義史觀、邊陲史觀與台灣歴史詮釋
４、台灣史與臺灣學

2（題）中國史教學與研究之檢討舉隅
（著）鄭欽仁
（年）1995年（民國84年）８月
（出）臺灣歴史學會通迅第１期　P.９－13
（考）目次
一、前言
二、中國史教學的檢討
(1)與生態環境認知脱節的中國史教學
(2)朝代政治與斷代分法之可議
(3)輔助科學的忽視
(4)戦後歴史學與歴史教育有總檢討的必要
三、歴史意識與國民意識的塑像及其謬誤
(1)文化論與Pax Sinica
(2)統一論與霸權

3（題）從台灣主體性論台灣史研究之必要
（著）張勝彥
（年）1995年（民國84年）8月
（出）臺灣歷史學會通迅第1期　P.4－6

4（題）「建立台灣主體性歷史觀」座談會
（編）台湾歷史學會
（年）1995年（民國八十四年）8月
（出）臺灣歷史學會通迅第1期3　P.29～36
（考）1995年2月26日午後1時30分から5時まで、國立台灣大學法學院國際會議廳、主持人：李永熾、曹永和　引言人：台灣史－張勝彥、張炎憲　中國史－鄭欽仁、陳錦忠　日韓史－林明德　東南亜史－林東陽　歐美史－周樑楷

5（題）探索WWWの資源寶蔵
（著）賴苑玲
（年）1996年（民國85年）4月30日
（出）國教輔導　第35巻第4期　P24－27
（考）台湾教育で活用できそうなホームページを紹介している。

6（題）台灣近代百年史論文集
（編）張炎憲陳美蓉黎中光
（発）財團法人吳三連台灣史料基金會
（年）1996年（民國85年）8月
（考）目次
序一　陳奇祿
序二－從1995年的學術研討會反省台灣歷史意識　張炎憲
以「國語學校」爲場域、看日治時期的語言政策　陳恆嘉
近五十年台灣語言政策的變遷　黃宣範
日治時期台灣文化論述意識型態分析－以「台灣新民報」系統的「同化主義」表意爲例　林淇瀁
多音交響的可能－論台灣文學語言的歷史発展　呂興昌
戰後台灣文學的再編成　林瑞明
論台灣文學的「非情」　陳萬益
「台灣人形象」的自我形塑－百年來台灣美術家眼中的台灣人　蕭瓊瑞
戰後台灣劇場的與衰起落（1945～1949）　邱坤良
百年來台灣歌謠傳略　莊永明
論長老教會與台灣現代化　董芳苑
西來庵事變的象徵意義初探－果報、財富與兩性關系在有關善書中的鋪演　方孝謙
子弟曲館與台灣中部的城鄉互動－以彰化集樂軒和梨春園中心之考察　林美容
台灣都市発展與教育空間分佈的變遷－兼論社會活動空間的演變　章英華
一百年來台灣政治運動中的國家認同　李筱峯
對1980年代台灣民族認同形成的文化分析　蔡篤堅
「外省人」自由主義者對「台灣前途」的態度－以雷震、殷海光及傅正爲例　田欣
夾縫中的族羣建構－泛原住民意識與台灣族羣問題的互動　孫大川
百年來台灣法律的西方化　王泰升
五十年來的台灣法制　林山田
台灣史研究與台灣主體性　張炎憲
台灣左翼運動史與政治變遷－後殖民史學的一個檢討　陳芳明
台灣辺百年的産業発展－以織業爲例　林忠正
百年來台灣的對外貿易進展　林鐘雄
台、日、中三角關係看台灣與日本的発展　黃昭堂
戰後的台、中關係－結構性現實主義的觀點　施正鋒